「いじめ」から子どもの命を守る対応を求める意見書

また「いじめ」が原因と思われる痛ましい自殺によって町田市在住の女子中学生の命が失われた。

「いじめ」問題の克服は社会全体の責任として取り組まなければならない問題である。子どもの命を守ることを最優先にすることを原則として、様子見にならずに全教職員や保護者も巻き込んで、学校、地域みんなの力で解決するよう努めることが大切である。

そのためには、子どもの悩みや声に耳を傾け、変化に気付く学校の体制を強化することが早急に求められる。学校現場は、教師の多忙化やすしづめの教室によって、ゆっくり子どもと心を通わせるゆとりが失われている。子どもと向き合い、問題を抱える子どもに寄り添う体制を作ることが、「いじめ」を克服するためにも大切である。そのために、文部科学省、東京都教育委員会は、子どもの命を「いじめ」から守るため、必要な職員配置や教職員の多忙化の解消を行うことが必要である。

よって町田市議会は、国及び東京都に対し、以下のことを早急に実現するよう求めるものである。

- 一、 教員の「多忙化」を解消すること。
- 一、 早急に35人学級を全学年に拡充すること。
- 一、 養護教諭を500人以上の学校で複数配置すること。
- 一、 スクールカウンセラーの増員を図り、配置日数を増やすこと。
- 一、 医師や専門家による「いじめ防止センター」を設置すること。

以上、地方自治法第99条の規定に基づき意見書を提出する。